

【飛躍の年へ 2016年政経倶楽部活動方針 及び 各支部長挨拶】

2016年の年初に飛び込んできた一番のニュースが、サウジアラビアとイランの国交断絶でした。政経倶楽部の首席顧問である、林英臣先生が2000年をクロスポイントとして、西洋の文明と東洋の文明が大きく入れ替わるといふ「文明法則史学」のなかで、文明の交代期の前後50年に、大きな民族移動、動乱が必ず起こっているという大局観とまさに重なります。ますます、政経が分離したもてはないことがまさに実感できる事案ではないでしょうか？

今年度当会方針は、

- ①各支部正会員30社体制の確立
- ②仙台支部の立ち上げによる全国展開
- ③政経倶楽部の三つの基本理念(共生文明、高德国家、公益経済)を皆さんそれぞれの会社の経営理念と繋げ確立してゆくための「三理研修」の実施

そして各支部それぞれの独自性を発揮した活動を推進していきます。この一年よろしくお祈りいたします。



政経倶楽部連合会理事長
吉田 平

昨年度は10年間の活動を本格的な実践へ移すべく様々なアクションがあった。まずは100年委員会が発足した。我々の使命を具体的な行動規範に落とし込んで実践する機関であり、会の活動としては新たな一歩を踏み出した。

また、11月に「本部役員三理(三つの基本理念)研修」を実施した。本部の中心役員6名が一堂に会し、一泊二日で当会主席顧問である林英臣先生からご講義を頂いた。この研修では「共生文明の創造」、「高德国家の建設」、「公益経済の確立」という三理の基本に立ち返る事で我々の目指すものを再確認・共有することができ、幹部の結束を一層高めることができた。

今年度は、昨年実施した様々な学びや実践を更に昇華させ、政経倶楽部の活動をより浸透させる年としたい。そのためには何となく「仙台支部」の設立は必達の目標である。空白であった東北に拠点を作る事によって全国展開＝全7支部体制が完成する。現在は今年度設立のために既に様々なアプローチを行っており、実現の日は近い。支部の全国展開がなされれば、一気に政経倶楽部の活動は飛躍することになるだろう。そこから真の意味での「日本創生」が始まるのだ。我々の使命は重大かつ壮大だ。その為にも皆様におかれましては一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



政経倶楽部連合会フアンダー
寒竹 郁夫

【政経倶楽部連合会 全6支部 各支部長挨拶・最新活動レポート】

<東京支部>

東京支部は、原則第一木曜日に例会を行っておりますが、4月はワイン会例会、9月は夜例会、12月は土曜日に懇親会つき例会 というスタイルが定着して参りました。

さっそく本年1月は、林英臣政経塾1期生、気鋭の井坂信彦衆議院議員(維新の党)のご講演からスタートしました。

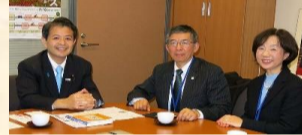
2月は若手女性起業家、(株)和える代表取締役の矢島里佳氏をお招きします。本年も、政治家、経営者、学者の方々との多彩な講師陣をお招きし、「学ぶ、伝える、育てる」の精神で活動して参ります。

今夏の参院選には、会員の小西洋之参議院議員(民主党・千葉県選挙区)が改選を迎え、当会で馴染みの山田宏前衆議院議員(自民党・比例全国区)も出馬予定です。ご支援の輪を広げていきたいと思います。

----- 谷口 郁子 東京支部長



H28. 1月度東京支部例会



H28. 3月度東京支部例会
講師 宮下 一郎 自由民主党衆議院議員
表敬訪問 (宮下一郎氏公式HPより)

<千葉県支部>

2016年がいよいよスタートしました。世界経済の牽引役を失った今、日本の役割は益々大きくなって行くと思います。そんな中で政経倶楽部 千葉県支部はグローバルな企業からの学びや日本人の心を学び続けてまいりました。

本年は今までの学びを活かす年になります。当支部では政府の日本創生を受けて県内の経済活性化を目指す為、各企業の成長はもちろんのこと、地域を如何に再生するかをテーマに取り組んでまいります。

その一環としてMICE・IRの具体的な行動に取り組みます。そして、その他多角的な視点から地方再生に向けた活動や学びを中心に政経倶楽部連合会の発展を図って行きます。

どうか本年もよろしくお願い申し上げます。

----- 山本 克己 千葉県支部長



H27. 12月度東京・千葉合同例会



H28. 1月度千葉県支部例会

<大阪支部>

平成28年5月に大阪支部は設立5周年を迎えます。5周年記念講演として、5月28日(土)に新大阪ワシントンホテルプラザにて、ケント・ギルバート氏をお迎えし、記念講演会並びに懇親会を開催する予定です。ケント・ギルバート氏は、アパ日本再興財団主催の第8回「真の近現代史観」懸賞論文において、「日本人の国民性が外交・国防に及ぼす悪影響について」という論文で見事に最優秀賞を受賞されました。私もその論文を拝読いたしました。アメリカ人の視点から見事に日本及び日本人を捉えられています。

今後は3つの基本理念に沿った活動を推進するとともに、本方針に則り大阪支部の正会員を30社体制にもっていきます。それとともに大阪支部では、世界情勢部会・近現代史部会等を設け、各役員が担当し知識を深め、そして行動をして参る所存です。ぜひ他支部の会員の皆様も大阪支部例会にお気軽にお越しください。お待ちしております。

----- 上能 喜久治 大阪支部長



H27. 12月度大阪支部例会



H28. 1月度大阪支部例会

<名古屋支部>

昨年1年間の支部活動を振り返って～素晴らしい進展がありました。支部設立4年目の昨年は3つの進展がありました。ひとつは政経倶楽部の基本理念に沿った毎月の例会が出来たこと。ふたつ目は役員の中に理念を大事にして行くこと云々、その実践者が確実に増えて来たこと。3つ目はこの二つことから今年度の方向性が見えて来た事です。いずれにしても幹部の方々が良く頑張ってくれました。素晴らしい講師の選定が出来ました。出席者が熱心に聴いて会場を盛り上げてくれました。良き1年でした。

- * 反省点 (1) 会員の獲得が目標に大幅に達しなかった。
- (2) 毎月の役員会が喫茶会なので落ちて来て出来なかった。
- * 新年度方針 (1) 会員数50名(正会員30名)を必達します。
- (2) 例会の充実 明るく、楽しく取り組んで参ります。
- (3) 地域再生に取り組む2つの部会の発足をいたします。

----- 牧山 育美 名古屋支部長



H27. 12月度名古屋支部例会



H28. 1月度名古屋支部例会

<広島支部>

昨年10月で1周年を迎えました。会員の獲得もままならず、役員の交代もあつたりして例会運営にはこずりました。しかしながら、本部役員、事務局の方々にも多大な支援を頂き、少ない役員も頑張っており、現在に至っております。

2年目の今年は、会員の増強、役員の充実を図り、事業を拡大して行きたいと思っております。幸い会員もだんだんと増え始め、環境は整いつつあります。例会だけでなく、情報交換や勉強のための集まりを、担当幹事を決めて、定期的に行っていく予定です。それが会員の更なる獲得にも繋がることだと考えております。2周年例会には、100名の会員を集めたいものです。

----- 佐藤 克則 広島支部長



H27. 12月度広島支部例会



H28. 1月度広島支部例会

<九州政経倶楽部>

昨年5月から旧福岡県支部を経て第3期九州政経倶楽部として活動を再開させて頂きました。これも日頃ご支援を頂いている皆様のおかげであり厚く御礼を申し上げます。

第3期として再スタートを切りましたが、毎月の例会運営や動員もおぼつかず現在も支部役員で模索しております。

今年度は原点に立ち返る意味も含め、当会主席顧問である林英臣先生に数回のご講演を頂きます。その第一弾は2月度例会からですが、皆様と一緒に政経倶楽部3つの基本理念を学び直し、九州政経倶楽部としてどうあるべきかを確立する年にしたいと考えています。

九州政経倶楽部発展に役員一同、全力で取り組む所存でございますので、今まで以上に皆様からご指導ご鞭撻を頂きますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

----- 毛利 克彦 九州政経倶楽部支部長



H27年度九州政経倶楽部例会①



H27年度九州政経倶楽部例会②

「日本政経連合会総研レポート」第6号 カオスの世界を生き抜く心得

◆ 民族大移動を伴う世界史激変の転換期 ◆

平成28年は、どういう年になるのか。これを論じたいところだが、今年一年を見ただけでは断片的なことしか展望出来ない。世界はカオスの時代に入っている。思い切って大局に立たなければ、転換期の変動に振り回される人生で終わってしまうだろう。文明評論家の村山節先生が確立された「文明法則史学」によれば、世界文明は東西に分かれ、800年周期で入れ替わってきた。その交代期(約100年間)は民族大移動を伴う世界史激変の転換期となるが、今回の交代期は21世紀、則ち今である。文明交代期に入ると、それまで圧倒的な力で世界をリードしてきた旧文明が、音を立てて崩れ落ちていく。そして、旧文明の周辺に位置する異質にして野性的な集団が、旧文明に激しく襲いかかるのである。21世紀の今、旧文明と化したのは西欧文明であり、異質にして野性的な集団はイスラムとロシア、そしてチャイナではあるまいか。パリでは、「イスラム国」による同時多発テロが起きた(昨年11月13日夜)。米欧に組みするトルコと西欧に対して異質であるロシアは、シリア問題をめぐって対立関係にあったが、ついにロシア軍機撃墜という軍事衝突が起きた(昨年11月24日)。

13億6700万人もの人口を抱えるチャイナは、経済力を高めることで世界に躍り出たものの、人為による事故や災害、環境汚染が進行している。もしも一党独裁体制が破綻し、内部分裂したら、武装した難民が日本列島に押し寄せることになりかねない。文明交代期は約100年間続き、今回は1975年～2075年が転換期となる。その中で2025年～2050年あたりが、最も激変期になると予(かね)てより予想されている(村山節先生)。

中東や北アフリカから欧州に押し寄せる難民問題は、とうとう「21世紀の民族大移動」(池上彰氏)と呼ばれるようになった。だが、民族大移動と呼ぶには、まだ入り口に過ぎない。ゲルマン民族の大移動を例に取れば、その内容は殺戮・略奪・暴行にあった。刃向かう男は殺され、食糧とめばしい宝は全て奪い取られ、女はレイプに遭った。

これから先、膨張資本主義が終焉のときを迎え、人類の生活が一変せざるを得なくなる可能性がある。そうなれば、人類全体が「文明交代期の難民」と化し、酷ければ世界全体に激しい動揺が起きかねない。そのときの備えを、今から整えておく必要がある。防衛・治安は勿論のこと、水・食糧・資源・エネルギーなどの確保が重要課題となる。その点、日本の地方は大変豊かだ。いずれ都会に住めなくなった国民が、地方に「民族大移動」を起こす日が来る可能性もあり得る。こういう話は杞憂で終わることを切に願うが、最悪の事態への対応策を怠ってはならない。

◆ 現代文明(西欧原理)の3つの限界 ◆

文明交代期の今、一番の問題は、次の文明を創造する原理が見当たらない点にある。西の文明が日没となり、東の文明が夜明けを迎えた現在、これまでの西欧原理の限界が様々な面で露わになってきた。西欧原理の限界の第一は、「二元論的部分観」の行き詰まりにある。AとBが二元対立関係にあるとき、その一方を選び他方は捨てるという部分観があるが、これが物事の捉え方として機能不全に陥った。「西欧が非西欧か」であれば「物質か精神か」であれば「物質(で証明出来るほう)を」「人間か非人間(動植物や自然環境)か」であれば人間を最優先に選択するというあり方が限界を迎え、これまでの原理では転換期を乗り越えられない段階に到達したのだ。要するに「部分選択の文明」が限界に至ったということである。西欧原理の限界の第二は、「欲望民主主義」の行き詰まりにある。民主主義の基本となる選挙制度は、単なる人気投票と化した。政党は「風」を期待して、国民におもねるばかり。マスコミも、それを煽っている。候補者は有権者の欲求・要求を汲み上げれば当選出来ず、政治家は万(よろず)便利屋に成り下がった。

法案は可決までに長い時間を要し、政治の意志決定にスピード感が無い。政治日程は選挙日程と連動し、政治家は4年先まで考えるのがやがと。場当たり・横並び・先送りの政治が続く。「国家百年の計」はすっかり死語となった。国民は、勝手主義の自由と悪平等に狂奔し、低徳化する一方である。投票率も下がるばかりだ。

西欧原理の限界の第三は、「膨張資本主義」の行き詰まりにある。そもそも、どこまでも右肩上がり成長するような活動はあり得ず、経済にも循環があるのが自然だ。そうであるにも関わらず、世界経済の下降による混乱を避けるため、各国は成長を欲して必死になっている。そうして、ひたすら規模拡大を目指して戦い、市場は戦場、同業者は敵、社員は道具となった。数字上の成果を上げて、実態は社長・社員・その家族・お客様・株主などの誰かをだまし、取引先・協力会社、あるいは地球環境などのどこかに迷惑をかけている有り様。格差も広がるばかりで、膨張資本主義は最早(もはや)危篤状態にあると言えよう。いろいろな経済政策も、一過性の延命治療の域を出ていない。一日も早く私利中心の強欲経済から脱却しなければ、人類に未来はないだろう。なお、これら3つの限界を超え、次の時代を創造するために掲げているのが、3つの基本理念である「共生文明の創造」「高德国家の建設」「公益経済の確立」だ。部分文明から共生文明へ、低徳国家から高德国家へ、私利経済から公益経済への転換を進めていきたい。

◆ 経営者としての「転換期」の心得 ◆

では経営者として、この転換期に何をすべきか。兎に角、一所懸命ファンを増やそう。ファンや固定客は、自社の存立基盤なり。そして、ファン獲得のために独自性を磨こう。独自性とは、本業や基本を生かした固有のお役立ち能力のことである。また、品質を最高水準に高めよう。そうすれば、安直な安売り競争から脱出出来る。さらに、教育を徹底しよう。社長である自分と社員・スタッフが共に学び、共通言語を増やし、価値観(理念)を共有すれば、全社一丸となった連係プレーが可能になる。

それから、転換期になるほど、次の諸点を心掛けた。原点を忘れず、理念からブレない。全体を眺めて物事を考え、遠くを見つめつつ決断を下す。近いところを見直し、今出来る事から始める。単なる人マネはしないで、これまで蓄積された基盤を生かしながら進化していく。一過性のブームに注意し、明らかに背伸びした拡大はしない。これらの心掛けにおいて、3つの基本理念を参考にしたい。時々、世間の逆も意識してみること大事だ。皆が見向きもしないところ、賞賛しないところ、バカにするところに、次の時代を創造する原石が眠っているものである。なお、公益経済について補足を述べておく。公益とは、世の中全体の利益のことだ。私利私欲を満たして終わるのではなく、世のため・人のために働くのが公益経済である。公益経済は、略奪型の膨張資本主義を修正する進化的経済であり、次の三つの内容を持つ。

第一は、天地自然の働きを生かした循環型経済である「天本主義経済」第二は、地産・地消の「地域経済生態系」を基本とする「地本主義経済」第三は、人が幸せになるための互惠繁栄経済である「人本主義経済」。政経倶楽部連合会主席顧問「共生文明の創造」「高德国家の建設」「公益経済の確立」の3つの基本理念は、初めて聞くときは難しく感じるだろうが、よく咀嚼することで、その重要性が次第に理解されることと思う。



政経倶楽部連合会主席顧問
林 英臣